
弦城恭夜たちの能力設定（Fate風味）

弦城恭介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

絃城恭夜たちの能力設定（Fate風味）

【Zマーク】

Z3800P

【作者名】

絃城恭介

【あらすじ】

絃城恭夜の説明です。

目次なので実際には違つかも知れません

『魔法少女リリカルなのは』チート野郎がトリップしたようです
の絃城恭夜

能力値

筋力 S ++ (EX)
耐久 S ++ (EX)
敏捷 S + (EX)
魔力 EX
幸運 A + (EX)
宝具 E ↗ EX

() 時の能力値は、蒼香に寄る加護があつた時のみ

【保有スキル】

カリスマ : A
大軍団を指揮する天性の才能。Aランクはおおよそ人間として獲得しうる最高峰の人望といえる。

黄金律 : A

身体の黄金比ではなく、人生において金銭がどれほどついて回るかの宿命。

大富豪でもやつていける金ピカぶり。一生金には困らない。

幻術 : A +

魔術系統の一種。変幻能力。

個人を対象とした物から、天を覆う程の大規模行使も可能。

これにより、自身を含めた物の性質を偽装させられる他、幻影や分身の生成、目も眩まんばかりの強烈な光を生み出すことや天を覆う黒雲の幻を見せてることで無明の世界を作り出すことも可能。このランクになると対象の“精神”に自然な形で誤認することを強要し、

肉体にも物理的な影響を与える事が出来る。

騎乗：A++

騎乗の才能。獣であるのならば幻獣・神獣・竜種まで乗りこなせる。

千里眼（淨眼）：A+

視力の良さ。遠方の標的の捕捉、動体視力の向上。
透視、未来視、過去視さえも可能とする。

淨眼は千里眼の劣化品としてこの場では扱われる

気配察知：A+

敵の気配を察知する野生の超感覚。

周囲の生命体の位置を捕捉可能。

このランクならば数kmの範囲を容易にカバーする。

気配遮断で存在を隠匿していても判定次第で見破る事が出来る。

言語理解：A+

動物～竜種までの言葉を理解することができる。ただし、竜種自体が人語を話せたりするので神獣がいいといふ

気配遮断：A+

自信の魔力を絶つ。完全に気配を絶てば発見することは不可能に近い。

ただし自らが攻撃態勢に移ると気配遮断のランクは大きく落ちる。

高速思考：C

物事の筋道を順序立てて追う思考の速度。

特に策略や陰謀などにおいて大きな効果を發揮する。

軍略：A

一対一の戦闘ではなく、多人数を動員した戦場における戦術的直感力。

自らの対軍宝具や対城宝具の行使や、逆に相手の対軍宝具、対城宝具に対処する場合に有利な補正が与えられる。

奇跡（偽）：A +

望むがままに他者の望みを叶える、文字通りの奇跡…の幻影。一時的にせよ世界を騙すことで、幻影でありながら物理的な効果を及ぼし、奇跡と呼ぶに相応しい大規模干渉や死者の蘇生すら再現する。

しかし、あくまで効果は幻影により「騙されている間」に限定されるため、

幻影と見抜いたもの（と、その周囲）に対しては効果を及ぼさず、また魔力供給が途切れれば効果は中断する。

魔力効率が極めて悪く、更に即時性には劣るため戦闘には向かない。

仕切り直し：A +

どんな状況でも戦況をターンの最初に戻す事が可能。最早呪いの域。

心眼（真）：A

修行・鍛錬によって培つた洞察力。窮地において自身の状況と敵の能力を冷静に把握し、その場で残された活路を導き出す“戦闘論理

”。

逆転の可能性がゼロではないなら、その作戦を実行に移せるチャンスを手繕り寄せられる。

心眼（偽）：A

視覚妨害による補正への耐性。第六感、虫の報せとも言われる、天性の才能による危険予知である。

戦闘続行：A

往生際が悪い。瀕死の傷でも戦闘を可能とし、決定的な致命傷を受けない限り生き延びる。

対魔力：A +

A +以下の魔術は全てキャンセル。事実上、魔術では恭夜に傷をつけられない。ただし、なのは達の魔法は魔術とは構造が違うので、魔力ダメージだけは与えられる

ルーン：A

北欧の魔術刻印・ルーンの所持。

分割思考：B

思考中枢を仮想的に十二に分け、同時に運営する。おそらく人間の域では最高のランク

魅了：A

魔性の美貌により、老若男女を問わず対象の精神を虜にする。ここまでくると魅惑ではなく魔術、呪いの類である。対魔力で抵抗可能。

使用タイミングを恭夜は自在に操ることができ

矢よけの加護：A

飛び道具に対する防御。視界外の狙撃手からの攻撃であっても投擲武装であれば、対処できる。ただし超遠距離からの直接攻撃は該当せず、広範囲の全体攻撃にも該当しない。

神々の加護：A +

危機に瀕した際に神靈レベルの支援行使が行われる。神々の寵愛を強く受けすぎた為に稀に敵対する他の神々に妨害されることがある。

（恭夜の場合は蒼香、十三番田、ミネルバ（蒼香の姉）からの加護を受けられる）

神性：B（A + + +）

転生時に蒼香から与えられた力と十三番田と同化した力
（）時は覚醒時のみ

魔力放出：A

武器ないし自身の肉体に魔力を帯びさせ、瞬間に放出することによつて能力を向上させる。

覚醒：？

纖細不明

【宝具】

『創造』

ランク：EX 種別：対人、対界宝具 レンジ：1人 最大捕捉：

絃城の血により覚醒した能力。自分の頭の中で考えたモノや実在し

たものを本物として創りだすことができる。ただし、世界の理から反するものは創る事は可能だが自信の命を大幅に削ることになる

使い方によつては世界を一つ潰すことも創ることも可能

『固有結界・黄昏の混沌』

「コスマス・オブ・ザ・カオス

ランク：EX 種別：対界宝具 レンジ：1～

最大捕捉：1～

人

創造と絃城家に伝わる『原初の創造』を組み合わせた事で生まれた一つの世界

纖細は不明

『淨眼』

ランク：C+ 種別：対人宝具 レンジ：1～99 最大捕捉：1
000人

「見えない物を見る」程度の能力。

解説

もともとは唯の人間。並行世界でならかなりの血統の持ち主だが、彼の世界の絃城家は衰退していくので魔術から遠く離れていて、普通の家系に戻りかけていた

しかし、殺人鬼に殺され、蒼香によつて転生させられたことによつて絃城の血が覚醒し『創造』を使えるようになった

現在の彼の目的は『誰かを守ること』であり、どこかの正義の味方になりかけている

『そらのおとしもの～それぞれの思い』の絃城恭夜

能力値
筋力B（A -）
耐久D（C + +）
敏捷C（B + +）
魔力A + +
幸運A +
宝具A + +

（）時のステータスは、魔術に寄る強化と制限解除時のみ有効

【保有スキル】

模倣：A

一度見たモノを完璧に再現できる。知識として知っているだけのモノならばランクが一つ下がるが、ほぼ完全な状態で再現できる。

カリスマ：B

軍団を指揮する天性の才能。団体戦闘において、自軍の能力を向上させる。カリスマは稀有な才能で、一国の王としてはBランクで十分と言える。

道具作成：B

魔力を帯びた器具を作成できる。恭夜の場合は、創造を補助にこち

らでモノを造る方が多い

創造：C++（EX）

頭の中で想像したものや、世界に実在したものを本物として創り出すことが可能。世界の理に反するようなモノを創る事はできない

絃城継承時に見た夢の中で『絃城恭夜』の創造を見ているので、模倣による再現が可能。ただし、自身の魔力を大幅に削る事になるので非常に効率が悪い

高速思考：C

物事の筋道を順序立てて追う思考の速度。

特に策略や陰謀などにおいて大きな効果を發揮する。

天使の加護：C

天使の加護により、一対一の戦いにおいて幸運を引き寄せる。

【宝具】

『模倣の魔眼』

ランク：A 種別：対人宝具 レンジ：？ 最大捕捉：？人

絃城の血による能力の一つ。一度見たものを完全に再現することができる。消費魔力が非常に少なく、宝具の担い手の情報を模倣することにより、宝具の完全な真名開放も可能とする。

『創造』

ランク：C+（EX） 種別：対人宝具 レンジ：1m 最大捕

捉：人

自身の魔力を代価に『モノ』を創り出すことが可能。しかし、彼の『創造』は模倣による不完全な状態で引き継いだ能力なので、現時点では完全な使用は不可能となっている。

道具作成のスキルと模倣のスキルをうまく使つたのならばA+ランクまでの宝具を、最大三つまで創造可能。同時に真名開放も可能である

しかし、魔力消費の効率が悪いので恭夜自身はもっぱら道具作成のスキルを優先して使う傾向にある

『聖域を守護する白銀の翼』
サンクチュアリ・ラヴァナヴァル

ランク：B 種別：対人宝具 レンジ：最大捕捉：1人

『創造』による宝具。自身の背中に白銀の翼を創り出す。その翼は一度のみ、あらゆる攻撃から身を守る事ができる。その他、常時B-ランクまでの攻撃を一切無効化している

しかし、扱い手である恭夜は「空を自由に飛ぶ翼」と言つ概念で創造したので、そんな効果があることを知らないようだ

解説

幼い頃は唯一の一般人であったが、ある歳を境に魔術師として育てられ始めた。

もともとは交友関係が広く、友達や知り合いが多かつたのだが、魔

術師として教育され始めたときに空美町から隣町に引っ越ししたために現在は友人がいない

つい最近になって一人暮らしを始めたと思ったたら、またしても父から突然の知らせで前に住んでいた空美町に戻ることになった

彼自身は孤独を嫌い、友人関係を大切にしているのだが、周りからは声の掛けにくいイケメンとして扱われる

正確は平和を好み、失うことを良しとしない正確をしている。智樹は親友であり、また義弟のように扱っている

もはや主人公とはいえないほど脇で頑張っている。いつになればメインで話を作れるのだろうか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3800p/>

絃城恭夜たちの能力設定（Fate風味）

2010年12月14日17時47分発行